



教壇に立って

守山 淳(元)三井物産



三井物産を退任して五年目にご縁があつて兵庫県三田市にある関西学院大学(くわんせい がくいん)総合政策学部の教壇に立つ事になりました。ある日、勉強会でご一緒であつた関西学院の教授から「国際企業組織論の担任教授が急病に成つたので一学期だけで良いのでピンチヒッターをして貰えないだろうか」とのご依頼がありました。

東京在住の私には神戸三田キャンパスは余りにも遠いと思いましたが、人材だけが財産の商社で育てて頂き、普段から「理屈ばかりで何もしない人間ではなく、自分の言葉で語り、夢を持って強い意志で夢の実現にまい進する人物の育成が急務である」と言い続けていた事もあり喜んでお引き受けしました。



社会人を前にした三年生、四年生が中心のクラスでしたので、最初の授業の冒頭に自己紹介の後で「教壇に立つ為の勉強はして来ませんでしたので、他の授業の様に統計を駆使したアカデミックな授業は出来ませんし、する積りもありません。近々社会人になる皆さんに長年商社マンとして世界を相手に戦つて来た実体験を踏まえての授業をします」と申し上げて、「バンクーバーの冬季オリンピックで韓国の金妍児選手が金メダルで浅田真央選手が銀メダルに成つたのは何故か」

と言つた様な話をしました。学生諸君には興味深々なのでしょう。私語も早退もなく、皆真剣に目を輝かせて九十分間の授業を聞いていました。「凛として毅然とした生き方」。最近の日本人がいつの間にか忘れてしまった正々堂々とした生き方、人様に迷惑をかけず、人様に恥ずかしくない生き方、潔い出处進退、仁義礼智信の五徳の教え、武士道精神に学べ、など商社論ではない人間論の授業を続けて来ました。

大学は先生の話を一方向的に聞くだけの授業が多い事から、期末試験はやらない。その代わり毎回の授業内容の要点と自分の意見、感想、質問などをメールでレポート提出する事を義務付けました。そこから見えて来るのは学生諸君の素晴らしい感性です。確かにまだ実社会の体験もなく、社会問題への意識も薄い面があります。比較的裕福な家庭の子弟が多い大学という面もあるでしょう。素直ですが苦勞の無さも感じます。しかし自分で考え導き出された意見は論理の粗さはありませんが、確かな手応えを感じました。「就職で安定を求め大企業に、という学生が多いのは疑問」「終身雇用制度の弊害。何もしない年長者が高給取りで若者はやる気が無くなる。実力主義のアメリカ型を評価したい」「草食系男子を遅くさせる為には若者を全員自衛隊に入れるべきである」「日米体制を維持しながらも独立国としての自前の軍備を持つ気概、その為にも核武装をすべし」と言つた意見もありました。

我々は良く「今の若い者は・・・」と安易に批判をしますが、自分が学生時代にどうであったかを思えば、何時の世も若者は旺盛な吸収力と豊かな感性を持っています。そうした次世代を担う若者の可能性を信じ、我々は一步後ろに下がって少しばかりの豊かな人生経験と知恵で若者を支え

る。人間社会は昔からそうした営みの繰り返してはなかったのか、と感じました。

今、厳しい就職戦線に多くの学生がもがいています。若者の海外志向の低下が問題視されています。商社や外務省ですら海外勤務を嫌がると聞いて驚いていますが、学生に海外留学を勧めたら就職戦線に出遅れる、との返事がありました。企業は少しでも優秀な学生を採りたいと年々採用活動が早まっており、今では三年生の秋は就職活動で授業を欠席する学生も多くいます。学生の海外志向を阻害しているのは実は企業のエゴである事を反省し学生諸君が留学を含め落ち着いて学業に専念出来る環境を提供するのも企業の大きな責任であると感じました。

講師を引き受けて驚いたのは報酬の少なさです。東京から遠路である事から前日は三宮に宿泊しましたので講師の報酬では赤字でした。私は学生諸君と接する事で得られる喜びと幸い別の形での収入もあったので報酬の事は気にしませんでした。教授クラスになれば年収もかなりあるようですが、若い講師、助手では講座の掛け持ち、アルバイトをしなければ生活が出来ません。これでは学生が聴き入る様な熱のこもった授業を期待するのは無理です。人材育成が我が国の最重要課題であるとすれば、次世代を担う学生諸君に一番影響を与える大学教師の待遇改善、教育現場の充実は最優先の政策であり、大学にソロバン勘定を求めるのは国の将来を誤らせると思います。

一学期だけのピンチヒッターであったはずでしたが、受講した学生がどうしてもこの授業はもう一度聴きたいので残して欲しい、との強い要請が学部にあったとの事で新たに「日本総合商社論」の講座が設立され、翌年からも三田通いが続きました。初年度は遅刻しては大変との思いから前日は宿泊しましたが、次年度からは毎週往復八時間の通学となりました。帰宅すれば学生からの150通近いメールレポートが届き、その全てに目を通しコメントをして返信する生活が続きました。さすがにこれには体にガタが来て、結局丸三年で関

西学院の講座は辞退させて頂きました。

最後の授業での締め括りに「人生の価値、人間の価値は自分を誤魔化さず、おもねる事なく、奢ることなく、淡々と飄々として自然体で、人と人の出会いや縁を大切に生涯にわたる交流の輪をどれだけ多く持っているか、だと思います」「健康第一と言いますが、健康が全て、です。どうか元気で夢や希望を一杯持って社会人を迎えて下さい。皆さんの人生が輝かしいものである事を願っています」と挨拶をしたら、学生諸君全員が起立して盛大な拍手をして呉れました。



三年間で総勢 500 人の学生諸君との出会いがありました。卒業した今もメールを呉れたり事務所に訪ねて呉れたりと交流が続いています。往復八時間の三田通いの甲斐がありました。我々も中学、高校時代の先生を何時までも懐かしく思い出す様に、教師と言う職業はお金に代えられない素晴らしいものである事を実感しました。

大学も象牙の塔に閉じこもる事なく、実業界で豊富な経験を積み上げて来た企業人OBを活用し、刺戟しあう事でより魅力ある講座を提供して欲しいと思いますし、企業人もチャンスを見つけ積極的に大学の教壇に立って欲しいと思います。